

# 한통련 뉴스레터

제 111 호

発行:在日韓国民主統一連合（韓統連）

〒169-0074 東京都新宿区北新宿 1 丁目 30-30-124 電話/FAX 03-4362-5284

メール [chuo@korea-htr.org](mailto:chuo@korea-htr.org)

ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方は [chuo@korea-htr.org](mailto:chuo@korea-htr.org) までご連絡ください。（メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください）

## 정세 情勢

### ●李政権、スピード感もった国政運営…対米・対日外交が試金石



李在明大統領と野党（非交渉団体）との会合

#### 金建希、特検捜査開始

金建希（キム・ゴニ）に絡む疑惑を政府から独立して捜査する特別検察官が 7 月 2 日、正式に捜査を開始した。特別検察官の閔中基（ミン・ジュンギ）氏は記者団に対し、「さまざまな疑問にしっかりとした答えを与えられるよう最善を尽くす」と述べた。特別検察官法によると、捜査対象は金氏の輸入車ディーラー「ドイツ・モーターズ」の株価操作疑惑や政治ブローカー、ミョン・テギョン氏と共に国政選挙に介入した疑惑など 16 件。

#### 「国民の力」臨時トップ、就任会見

「国民の力」の宋彦錫（ソン・オンソク）院内代表は 2 日、臨時執行部トップである非常対策委員長就任の記者会見を国会で開

き、12.3「非常戒厳」宣言について、「責任を痛感し、改めて心から謝罪する」として、「こうした過ちを二度と繰り返さないという覚悟を刻みつけ、再出発する」と述べた。宋氏は院内代表と非常対策委員長を兼任する。

#### 李大統領、就任後初の記者会見

李在明（イ・ジェミョン）大統領は 3 日、就任 1 カ月に合わせ、旧大統領府の青瓦台で初めての記者会見を開いた。李大統領は冒頭発言で、「この 30 日間は一日一日を熾烈（しれつ）に走ってきた時間だった」と振り返り、「生活の苦痛を取り除き、再び成長・飛躍する国をつくることが最優先課題」として、「何より崩壊した国民生活の回復に全力を尽くしている」と述べた。

外交分野では、「（韓国は）国際舞台に復帰した」として、「最大の懸案の一つである韓米の通商交渉も国益中心の実用外交の原則に基づき、互惠的かつ共生可能な結果を導き出すことに最善を尽くす」と強調した。

対北朝鮮（※正しくは朝鮮、以下同じ）政策については、南北軍事境界線付近での拡声器による対北朝鮮宣伝放送を中止し、北朝鮮も韓国に向けた「騒音放送」を停止した

ことを取り上げ、「朝鮮半島の平和と安定を確保し、国民の日常が揺るがない国の第一歩を踏み出した」と評価。「平和の好循環はいくらでも可能だ」とし、「南北の意思疎通を再開し、対話と協力で朝鮮半島の平和と共存の道を切り開く」との考えを明らかにした。

また、三つの特別検察官チームが発足したことに言及。「正義の統合に向けた道のりが始まった」として、「国民の命令に従い内乱を完全に終息させ、憲法秩序や民主主義を再建することに中心的な役割を果たすと期待している」と述べた。「権力機関の改革もスピード感を持って推進する」とし、検察などの改革を進める姿勢も改めて示した。そのうえで、「国民との直接的な意思疎通を日常化、制度化して国政運営に積極的に反映する、名実ともに『国民が主人である国』へ進む」と強調した。

### 李大統領、金民錫氏を首相に任命

李大統領は3日、同日の国会本会議で可決された金民錫（キム・ミンソク）首相候補の任命同意案を承認した。国会はこの日の本会議で、李大統領が首相候補に指名した金氏の任命同意案を賛成多数で可決した。

「国民の力」は、金氏が首相に不適格として採決に不参加。金氏は自身の承認案が国会で可決された直後、国民の意思を天のように敬い、大統領を支え、与野党を超えて議員の知恵を国政に反映させるとSNSに投稿した。

金氏は1985年5月、ソウルの米文化院占拠ろう城闘争に参加した学生のひとり（当時、ソウル大総学生会会長）。政界入り後は、国会議員に当選4回。

金首相は4日、ソン・ミリョン農林畜産食品部長官の留任撤回を要求し大統領室前で

ろう城中の農民団体「農民の道」幹部を訪ね、解決に向けて協議した。農民の道はろう城を整理した。

### 野党、李大統領に5・9共同宣言の履行を要求

李大統領は3日、公邸で院内の非交渉団体である5野党（祖国革新党、進歩党、革新党、基本所得党、社会民主党）の指導部と昼食を兼ねた会同をもった。この場で祖国革新党と進歩党は5・9共同宣言の合意事項である「『社会大改革委員会』の設置」を要求した。同委員会は、革新党を除いた4野党が「共に民主党」と合意した主要政策課題の実行方を論議するために、市民社会と野党が参与するガバナンス（統治）体系。

大統領室によると、李大統領は「誠意をもって検討する」と答えた。また、参加者から検察改革の進展状況、農林畜産食品部長官の留任問題、労働懸案の解決および労働界との対話推進など、意見と要求が出され、李大統領は傾聴しながら「検討する」「対策を立てる」などと応じた。

民主労総は李大統領が労働関連課題について積極姿勢を示したことに対し4日、声明で「歓迎し実践を求める」と明らかにし、8日には政府の国政企画委員会と政策協議した。

### 特別検察官、尹錫悦の逮捕状請求

尹錫悦（ユン・ソンニョル）による「非常戒厳」宣言を巡る内乱事件を政府から独立して捜査する特別検察官チームは6日、尹錫悦に特殊公務執行妨害、大統領警護法違反、職権乱用権利行使妨害、虚偽公文書作成などの容疑を適用し、逮捕状を請求した。尹側は「無理な請求だ」と反発した。（逮捕状が10日未明に発行され逮捕）

## 李大統領支持率、就任後初の6割超

韓国世論調査会社のリアルメーターが7日に発表した調査結果によると、李大統領の支持率は前週（6月23～27日）に比べ2.4ポイント上昇した62.1%となり、同社調査で就任後初めて60%を超えた。不支持率は2.2ポイント下落した31.4%だった。

調査は6月30日から7月4日まで全国の18歳以上の2508人を対象に実施された。李大統領の支持率は就任から4週連続で上がっている。

## 5・9共同宣言を誠実・迅速に履行すべき

政権出帆から約40日。李政権はスピード感を持って国政を運営している。南北関係においては、拡声器放送を中止し、ビラ散布も主催団体を説得し中止に至った。北側からの対抗措置はなくなり、「対話と協力」の扉を開く上で、評価すべき先行措置となった。内乱清算については、三つの特別検察

官チームの発足により本格的な調査が始まった。特に、首謀者・尹錫悦を再逮捕し徹底追及しなければならないのは言うまでもない。社会大改革については、広場と野党の合意である社会大改革委員会の設置を急ぐべきだ。注目されるのはやはり対米・対日外交。まずはトランプ政権による関税攻勢・安保圧迫にどう対処するかが政権の行方を占う試金石となる。主権者・国民の利益と国家主権を守る姿勢で堂々と交渉に臨まなければならない。

いずれにしても、新政権には広場と野党が合意した5・9共同宣言を基本綱領とし、これを誠実かつ迅速に履行することが求められる。幸い、李政権は意思疎通と対話を重視するとし、野党、農民団体、民主労総などを対象に協議を始めた。記者会見における「名実ともに『国民が主人である国』へ進む」との決意と実践に期待する。

（2025年7月9日）

## 활동보고 活動報告

### ●モンダンヨンピル「在日同胞との同行」…宋委員長らが参加

朝鮮学校を支援する韓国の市民団体「モンダンヨンピル」（ちびた鉛筆）は6月27～28日、「2025 在日同胞との同行」を開催し、韓統連の宋世一（ソン・セイル）委員長と大阪本部の孫啓栄（ソン・ケヨン）副代表委員が招待を受け参加した。

27日夜にはモンダンヨンピルの事務所で「対談-祖国に向かって歩んできた道」を開催。俳優のクォン・ヘヒョ代表と映画監督の金明俊（キム・ミョンジュン）事務総長ら事務局メンバー、会員らが参加した。司会者の質問に答える形で宋、孫両氏は、写真や資料を交えながら、自身の生い立ちと家族の

歴史から始め、日本の学校や社会での民族差別体験を語り、韓青活動を通じて育んだ民族意識を土台に、韓国の民主化運動と祖国統一運動に参加するようになった経緯を振り返った。また、故国訪問団と汎民族大会を通じて、初めて祖国（南北）を訪問した際の感動に言及しながら、内外の同胞と共に自主・民主・統一運動を粘り強く続ける重要性和決意を強調した。参加者との質疑応答はその後の交流会へ続いた。

28日は貸し切りバスを利用し「仁川・江華島紀行-わたしたちが共に歩む道」を開催。古刹の伝登寺、同島を外敵から守るために

設置された史跡の要塞・広城堡などを見学し、同市の有形文化遺産である燕尾亭ではミニコンサートを楽しんだ。クオン代表はこの日の交流会で、今回の成功を成果として「さらに在日同胞との交流と連帯を深めよう」と2日間の行事を締めくくった。

#### 【モンダンヨンピル「在日同胞との同行」感想文】

### ふたたびみたび、ソウルを訪ねて

大阪本部 孫啓榮（ソン・ケヨン）

先日、韓国の団体であるモンダンヨンピル主催の「在日同胞との同行」事業に宋世一委員長とともに招待され、個人的には約6年ぶりにソウルを訪れました。

今回の訪問を通して、あらためて祖国の素晴らしさや歴史を知ることの必要性、韓国語による意思疎通の大切さを痛感しました。また食べるものすべてが美味しかったのは言うまでもありません。

今思えば、21歳で在日韓国青年同盟にめぐり会い、多くの仲間とともに長年にわたって言葉と歴史を学び、軍事独裁打倒と自主・民主・統一を掲げて運動を続けながら、初めてソウルを訪れることが出来たのはその25年後の46歳の時でした。当時、仁川空港に降り立った私は、ほほに涙が溢れることもなく、たばこを吸いながらぼんやりと空港外の風景を眺めていたことを憶えています。そして行事前の空いた時間を使ってソウルの街並みをじかに見ようと思い、約6時間自らの足で歩き回り、また地下鉄とバスを乗り継いだりしてソウルの街を全身で感じる事ができたような気がしました。

今回の訪問では、初日にモンダンヨンピルの会員たちとの対談があり、司会進行の質問に答える形で祖父母や父母が日本に移り住むようになった経緯から在日同胞2世として過ごした幼少期から学生時代、成人してからの韓青、韓統連で経験し感じたことなどを報告しました。その中で思い出したのが、私が小学生時代に学校から帰った後、おやつとして豚足を食べていたことです。ある日、両手と口周りを油だらけにしながら豚足を持って外に遊びに出かけたら日本人の友人たちが変な目で私を見ていました。それはさておいて、当時の韓青、韓統連時代に経験したことや感じたことなどを会員たちは興味深く聞いてくれましたし、質問されたりしながら非常に意義深い時間を過ごしました。二日目はソウルから西部にある江華島を訪れました。島の北部では漢江と臨津江が合流して西海へとつながっており、漢江からソウルへの水路があったため、一昔前はたびたび外国からの侵略と攻撃があり激しい戦闘の末、多くの民兵が犠牲になったと聞きました。島の対岸に北の地を肉眼で見ることができ、海が境界となっているために南北分断以降、双方の軍隊が監視し、漁業はもちろん船舶や人の往来は一切禁止されています。まだ行かれたことがない人はぜひとも訪れて南北分断の現実を見て肌で感じてほしいと思います。

最後に今回の事業を準備していただいたモンダンヨンピルの皆さんに心から感謝を述べるとともに、韓統連との関係が一段高く、また一層深くなったと思います。これからも協力関係を強めながら祖国統一に向かってともに歩んで行きましょう。



## 写真で見るモンダンヨンピル「在日同胞との同行」



スタッフが仁川空港に出迎え



発言する孫啓榮副代表委員



発言する宋世一委員長



参加者全体で記念撮影



江華島を散策



交流会で熱唱

### ●三重本部が紀州鉾山をフィールドワーク…朝鮮人犠牲者跡地を整備



朝鮮人犠牲者に献花し追悼する参加者たち

韓統連三重本部と韓青三重県本部は6月29日、熊野市の紀州鉾山跡を訪れフィールドワークを開催。現地の保存活動に取り組んだ。今回のフィールドワークは、5月に開催した学習会で講師の竹本昇氏が「亡くなった朝鮮人が埋葬されたとされる場所に

墓標のような石があるが、草に覆われて見つからない」との指摘を受け、記憶の継承と保存のため企画した。

草刈り機や鎌を持ち出発。道中、1926年の「木本事件」で犠牲となった朝鮮人2人の慰霊碑に献花した後、旧紀和町の共同墓地へ。かつて紀州鉾山では多くの朝鮮人が過酷な労働に従事し、命を落とした人々がこの地に埋葬されたとされる。

現地は一面雑草に覆われていたが、手鎌での探索の末、記憶に残る尖った石と他2つの人工的に配置された石を確認。周辺を除草し、献花、黙祷した。

フィールドワーク後は鉾山近くに古くからある「湯ノ口温泉」で汗を流し、食事会を開催。参加者全体で感想を共有し、活動の成果を全体で確認した。

### ●韓青が韓国の青年と交流事業…在日同胞の歴史と現状を共有



参加者全体で記念撮影

在日韓国青年同盟（韓青）は7月6日、大阪市内で「韓青・国内青年学生交流事業」を開催。韓青全国の盟員と、韓国から日本軍「慰安婦」問題と在日同胞問題に取り組む「ペ・ポンギの平和」と「自主統一平和連帯」青年学生委員会のメンバーが参加した。

生野区にある朝鮮市場（御幸森商店街）を

中心に、在日朝鮮人と猪飼野の歴史と現在の姿について学ぶ「大阪鶴橋在日朝鮮人歴史フィールドワーク」を実施。鶴橋商店街、疎開道路、平野川、大阪コリアタウン歴史資料館などを見学した。

いくのパークに移動し、懇談会と食事交流会を開催。韓青は現在の在日同胞青年の差別実態について報告。「ペ・ポンギの平和」は日本軍「慰安婦」被害者のペ・ポンギさんの生涯や、現在取り組んでいる活動について報告した。交流会ではゲーム企画を実施し、楽しく交流した。

韓成祐（ハン・ソンウ）中央本部委員長が閉会あいさつ。「これから在日同胞青年と国内青年学生の連帯が本当に重要となる時代がやって来る。来月韓国で開催する交流行事『第2回チンチャコリア』を契機として、わたしたちの主張を社会に響かせる活動を



共に行っていこう」と訴えた。

## ●活動レポート

### 6・26東京総行動、実施

「自立した争議団が共闘し連帯して、社会的課題と時代に挑む」1日行動である東京総行動が6月26日、都内で実施された。日本製鉄本社（東京駅丸の内）前でスタート集会。東京全労協の小泉尚之議長があいさつで「日本政府と日本製鉄は、植民地統治時

代の強制動員被害者に誠実に対応し責任を果たすべき」と主張した。続いて、「韓国オプティカルハイテック労組を支援する会」、JAL不当解雇撤回争議団、「日本製鉄元徴用工裁判を支援する会」などがアピール。同社前からの1日行動は、対象企業・団体・省庁を経てJAL本社前で締めくくられた。

## 행사예정 行事予定

### 7月

#### 情勢学習会(神奈川)

日時：7月20日（日）午後2時開始 場所：神奈川本部事務所 内容：情勢講演（講師：李俊一（イ・チュニル）事務長） 主催：神奈川本部 連絡先：090-1049-4261（文）

#### 韓統連セミナー2025 情勢講演会(大阪)

日時：7月27日（日）午後1時30分開場、2時開会 場所：KCC会館 5階ホール 内容：「一内乱勢力を一掃し、社会大改革を推進しよう！一朝鮮半島の未来と李在明新政権の課題」（講師：金昌五（キム・チャンオ）副委員長） 参加費：800円（青年学生・障がい者500円） 主催：大阪本部 連絡先：090-3822-5723（崔）

### 8月

#### 8・6ヒロシマ平和へのつどい2025(広島)

日時：8月5日（火）午後4時30分開場、5時開会 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室ABC 内容：「軍都広島137年、東京を含む日本全国大空襲一沖縄戦一広島・長崎原爆ジェノサイドから80年 重慶爆撃からガザ・ジェノサイドまでヒロシマは何をなすべきか」 資料代：1000円 主催：広島本部などで構成する同実行委員会 連絡先：090-4740-4608（久野）

李在明政権が発足して1カ月が立ちましたが、内乱事態に対する捜査が着々と進んでいます。先日ようやく、首謀者である尹錫悦（ユン・ソンニョル）が再逮捕されました。同じ過ちを繰り返さないために、内乱勢力に対する徹底した真相究明と処罰を望みます（李）